



笠鉾 松～追いかけてきた松！？～ 9/10(土)まで

笠鉾松は、菅原道真にちなんだ話が元になっておる。でんでんプレス5月号にも書いておったんじゃが、初めて読む人のために話して聞かせようかの。

太宰府天満宮の境内に「飛梅」という立て札のある梅があるのは知っておるか？ この飛梅とは、大宰府に左遷された菅原道真を慕って一晩で道真の京の家から飛んできたと言う梅のことなんじゃ。道真が詠んだ「東風吹かば思い起こせよ梅の花…」という歌は有名じゃな。実は、歌に詠まれなかった桜はがっかりして枯れてしまったんじゃと。それを聞いた道真は、梅は飛んできて桜は散ったというのに松ばかりはつれないのおという意味の歌を詠んだんじゃ。遅ればせながら大宰府までやってきた松は、追いかけてきた松⇒追い松⇒老松（長生きの松）となったという話なんじゃ。

笠鉾には、同じ松にまつわる住吉と高砂の松の妖精の彫刻も飾られておるよ。おめでたい松の話が二つも関係しているこの笠鉾は、実にめでたい笠鉾じゃ。他にも飾り板の彫刻など見どころがたくさんあるのでぜひ見に来てくれたまえ。



妙見祭の魅力紹介 7/5(火)～9/11(日)

「笠鉾を飾る様々な生き物～想像上の生き物編～」

お宝ギャラリーでは、夏休み企画として笠鉾の飾りの中から、想像上の生き物を紹介します。

ぜひ見に来てね。この生き物にはこんな意味があったのか！とびっくりするはずよ。



笠鉾蘇鉄の“麒麟”

笠鉾蘇鉄の飾り板には、中国の想像上の生き物でも最強と言われる「四霊」（麒麟・鳳凰・龍・霊亀）が揃っています。その中から麒麟を紹介します。

麒麟は、統治者の徳が広く行き渡った時に現れると言われます。雄を麒、雌を麟と言います。なさけ深い動物で、肉だけでなく植物も食わず、歩くときも草の芽を踏まず、虫も踏みつけません。角の端に肉があるのは、何も傷つけることのないようにという配慮の表れだと言います。

麒麟の角の端の肉が表現されているか…展示室でご確認を～！

民俗文化景観紹介

たなばたづな

八代・芦北の七夕綱

七夕綱は、ワラで作った綱にワラ細工を飾り、集落の境に張る七夕行事で、かつて熊本県南部の30地域で行われていました。現在では、八代市坂本町の木々子地区と芦北町の5つの地域で残っています。ワラ細工には、草履や牽牛と織女を乗せた船、タコやタマゴ、亀などさまざまな飾り物があります。坂本町の木々子地区では、完成した七夕綱を集落に流れる中谷川に8月末まで飾ります。ワラ細工はすべて地元の人の手作りで、8月6日より前日からみなさんでお堂に寄り合い、お喋りしながら慣れた手つきでワラ細工を作っていく姿は、見ている方も元気をもらいます。



プラネタリウムがやってくる!

8月11日 木



さかもと八竜天文台さんの移動式プラネタリウムがお祭りでんでん館にやってきます！100万個の星を映し出すことができるそうです。でんでん館との特別コラボ企画で、妙見さんと星の関わりをお話しします★ぜひおこしください。

【公演時間】 ①10:00～ ②11:00～
③13:30～ ④14:30～

【受付】 各回 20名。当日、先着順に受付。
どなたでも参加できます。